



歩いて会って何でも話す
ワクワクの突撃取材

あつてグッド

市民の皆さんが
たくさん登場

☆今回訪ねたのは
「花岡平和記念館」
H22.5.10取材



今夜は1年ぶりの同窓会
という文碩さん



今回は、この4月に完成した花岡平和記念館を訪ねます。記念館には、花岡事件を後世に伝えるため、中国人約千人が花岡地区へ強制連行させられた経緯や、花岡川の改修工事などで過酷な労働に耐えかね一斉蜂起した多くのかたが捕らえられ、共楽館(現在の花岡体育館の場所にあった文化施設)の近くに数珠つなぎに縛られた様子が描かれた墨絵などが展示されています。

花岡出張所を過ぎ、花岡川に架かる橋を渡って、左に曲がると、川沿いに記念館が見えてきます。開館を待っていたのは、愛知県から来た竹村文碩さん(犬山市)。竹村さんは名古屋鳳鳴会会長で、鳳鳴高校の同窓会に参加するために帰省したとのこと。

「2年前に釈迦内(じやう)枢(しゆ)唄(うた)という花岡事件がモチーフになった舞台の公演をお手伝いしたとき、花岡平和記念会の川田理事長にも協力してもらったので、ぜひ大館で会いたいと思っていましたよ」と文碩さん。高校まで大館に住んでい

たそうで「花岡事件のことは当時誰も教えてくれなかったんです。愛知に移り住んでから、花岡事件が書かれた本を読んで強制連行のことを知ったんです。記念館の資料を見ましたが、たくさん資料を集められた努力に感服しました。これからは、地元での総合学習などで活用してもらい、この歴史を忘れないでほしいです。確かに、花岡事件を風化させないことは、重要なことです。

当時の長屋(社宅)の写真を懐かしそうに見つめていたのは、鷲谷正直さん(向羽立)。



野球は巨人ファンと話す正直さん

「23歳まで長屋に住んでいましたよ。今は更地になりました。写真を見てみると長屋の友達と野球をして遊んでいたときのことを思い出しますねえ」。花岡事件のことは知っていたんですか? 「子どものころ、共楽館で拷問があったことなど聞かされました。当時は詳しく分からなかったんですが、本などで知ることが出来ました」。なるほど、私も今度読んでみます。